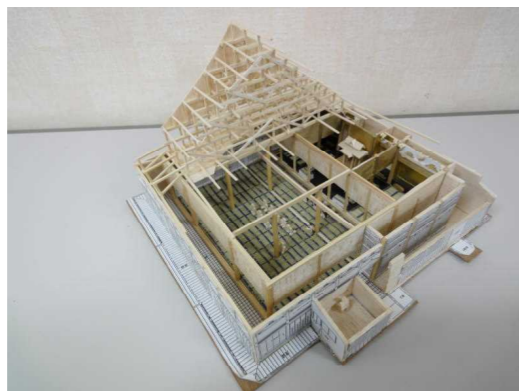


## 別院本堂建設中

只今1/100サイズの本堂を制作中です。職員(素人集団)による完全手作りで、すでに歪みが…  
完成の際には別院にて展示致します。斯うご期待!!



## 記帳書の提出はお済みですか？

旭川別院本堂等改修事業懇志 記帳書	
御懇志金 (御封書)	金 円也
御芳名	
御住所	住( ) 番
永代経	
懇志金方法: ○で囲んでご指定下さい。	
○一括納金	1 平成 年 月 日 納入予定
○分納納金	2 一括 3 半年毎
	4 毎月毎 5 その他
○納入方法	1 本堂に直接納入
	2 郵便振替
	3 月会等の時
発行日	平成 年 月 日 後者同(発行日)
記載日	平成 年 月 日

※記帳書の記入は、裏面を参考にして下さい。その他随時お受け致します。

昨年10月にお送り致しました封書の中に記帳書を同封してあり、本年1月中に提出をお願いしていました。記帳くださった方々には感謝申し上げます。

しかし、まだ検討中の方々にも記帳書の提出をお願い致します。全ご門徒の方々より記帳書をいただかなければ工事の目処が立ちません。改修が縮小されるかもしれません。

ご門徒全員が一丸となって本堂等改修を目指していきたいと、お願い申し上げます。

調査員:草部・垣原・横井よ・長尾・高橋  
2011年2月1日作成

# 別院しらべ隊

## 調査報告書No.14 建ち上げれ

### 工事の開始「起工式」

お参りに伺うと「本堂改修工事はどこまで進んだの?」という質問を多く聞きます。ご門徒の多くは昨年11月5日に行われた御遷仏法要が本堂等改修工事の起工式であると思われているのではないのでしょうか。御遷仏法要はあくまでも御本尊が本堂より仮本堂へ御移りいただく儀式であり、本堂等改修工事の起工式ではありません。

世間では様々な形式の起工式が行われていますが、本来の真宗大谷派の起工式、又今回の旭川別院での起工式はどのようにして勤まってくるのでしょうか。

一般的な起工式は「地鎮式・鎮地祭」を行う神事ではないのでしょうか。「地鎮式・鎮地祭」は、その土地の神(氏神)を鎮め安全を祈願するもので、一般住宅を新築する際などによく行います。

私たち真宗門徒にとっての起工式は、神に祈るのではなく、大勢の人とのつながりによって生活していく場所を、様々なご縁によって住居を構えることができることを喜ぶ儀式ではないのでしょうか。新たな生活を向かえることを多くの人達と共に喜ぶのです。

旭川別院の本堂等改修工事でも起工式を行います。お念仏の教えを頂く場所として相続された本堂を、先達同様私達もまた後世に相続していきたいという願いがあります。起工式を行うことによって、ご門徒・別院職員・工事関係者が共に「お念仏の声を絶やさず、相続していく」という同じ願いを持って、確かめ合い、この大改修工事に出会わせて頂けることを共に喜びたいと思います。

## \* 神事での起工式

設計者が鎌(かま)、施主が鍬(くわ)、施工者が鋤(すき)の順で盛砂を三度作業する仕草を行うのが正式な作法だそうです。本来、地鎮祭では

「苜始めの儀」

「穿初め(うがちぞめ)の儀」

「鎮物埋納(しずめものまいぞう)の儀」



の3つの儀式から成るのですが、最近は「穿初めの儀」(鍬入れの儀)のみに簡略化されている場合が多いです。

地鎮祭の鍬入れの儀の由来は、住宅などを建てる土地に砂を盛り上げて作った「立砂」は「神山」を形どり、その神山(神籬(ひもぎ: 神さまが降臨される憑代))を住宅の「鬼門」や「裏鬼門」に撒く習慣が起源と言われています。



## \* 真宗の起工式(意味)

- 1・新しい建物は、たとえそれが家庭でも職場でも、仏教の教えを聞いていく場所です。そのような道場建立の始まりをお祝いする儀式です。
- 2・道場建立と同時に、私達の中にもまた、仏の教えを聞いていく姿勢を建立しようと仏にお誓いをする儀式です。
- 3・木材という木々のいのちなどを載いて、新しい建物が出来上がるということに思いを馳せます。
- 4・施主・設計者・施工者などの交流の深まりを通して、より良い建物の完成を願う儀式です。

## \* 本山の起工式(2004年3月4日執行)

- ◆開式の辞
- ◆真宗宗歌斉唱
- ◆門首焼香
- ◆勤行
- ◆御修復始の儀(※注1)
  - 瓦釘抜き始
  - 瓦おろし始
  - 瓦あらい始
- ◆挨拶 1、宗務総長 2、専門委員会委員長 3、設計会社取締役会長 4、施工会社取締役社長
- ◆来賓披露
- ◆恩徳讃斉唱
- ◆閉式の辞



### ※注1【御修復始の儀】

この度の御修復の主たる内容である「瓦葺き替え」を象徴した行為を、施主・設計監理者・施工者の3者により行っていただき、御修復の完遂に向かって一致協力していくことを表明するとともに、両堂再建に携われた諸先達への感謝と尊敬の念を表現いただきます。

(真宗本廟 起工式次第参照)